

出典：オリジナル問題

解答

【文章例①（1000字）】

小学生の頃から私はサッカーに夢中だった。海外の一流チームに所属し活躍する日本選手に憧れ、毎日ボールを蹴り続け、衛星中継される海外試合に夜遅くまでかぶりついていた。多くの国々が参加するサッカーは、対立の続く世界を変えるのに役立つのではとも考えていた。

だが、ある時衝撃的事実を知った。サッカーボールが途上国の幼い子供たちによって作られていること、学校で学ぶべき年齢の子供たちが過酷な労働条件の下で働かされ、指の切断や過労による成長障害が頻発していたことだ。驚くような低賃金で製造され、日本に運ばれて店頭に置かれたボールを私がねだり、手に入れ、毎日蹴っていたのかもしれない。

モノもヒトも情報も国境を越えて移動する。日本には、海外から多様な商品が運ばれ、私たちは、それらを自由に選び、好きなモノを手に入れることができる。グローバリゼーションは、先進国に暮らす私たちにこうした喜びをもたらすが、それを可能にしているのは、途上国の人々の低賃金労働、過酷な環境なのだ。現地で働く子供たちは、教育・健康面で大きな不利を負うことになる。そして将来、それら不利な条件が、格差をより拡大することになるだろう。それを促しているのは、自身の欲求・楽しみを追い続けるこの私なのである。

私が、医を志すようになったのは、こうした世界の構造とそれを支えてきた自分自身のふるまいの意味を知り、私が傷つけたであろう子供たち、途上国の人たちに何とかお詫びしたいと思ったからだ。まず、ある大学の医学部の学生が主催するNGO組織にボランティア参加しイベントを手伝いつつ、紛争やエイズで苦しむ人たちの実態を学ぶ機会を得た。

地球上にはグローバルゼーションのツケのすべてを背負ってしまったような地域があるという。サハラ以南のアフリカだ。厳しい気候、止まない紛争、社会資本の未整備といった条件が重なり、多国籍企業すら進出をためらっている。そこで起きているのは、エイズの蔓延、ストリートチルドレンの増大であり、平均寿命が30代という国もあるのだ。

グローバルゼーションの利点を享受してきた私、同じ地球上に暮らす同士だからこそ、こうした地域を助ける義務と責任がある。医を学び、多様な文化に触れ、責任を果たすための力を身につけたいと強く思っている。

【文章例②（六〇〇字）】

9・11同時多発テロを忘れることができない。友人の親族が亡くなったのだ。テロ組織は、貿易センタービルをなぜ破壊したのか、多くの命を奪わねばならなかったのか、私は、情報を集め調べ続けた。

その中でもとても気になったことが二つある。一つは、貿易センタービルがグローバルゼーションの象徴ゆえにそれを破壊したというテロ側の理屈だ。「グローバルゼーションの主体は先進国の多国籍企業である。それらは、儲けを拡大するために途上国から資源や労働力を搾取し続けている。富を享受するのは先進国の人々だけであり、格差は開くばかりである。この誤りは正されなければならない」というのである。二つめは、そうした理屈を信じ、自身も含め多くの人の命を犠牲にすることを厭わない人たちが存在する、ということだ。

自身の暮らしを振りかえれば、彼らの理屈を全否定はできない。たしかに、私たちは多くのゴミを排出し地球環境を汚染し続けている。こうしたグローバルゼーションの負の側面の克服は困難だが努力は始まっている。だが二つめはどうか、その後もテロは頻発し続けている。人の命が道具のように扱われる事態は止まないのだ。

悲劇や悲惨をなくすには、地球上に暮らす人たちがすべてが命の尊さを共有することが不可欠だ。「医」を志す私は、貧困の中で蔑ろにされる命を助けることを通し、命の大切さを多くの人たちに伝えていきたいと思う。

1 設問要求

- ① グローバリゼーションの進展が生み出している功罪を挙げる。
- ② 現在の自分が、①で挙げた功罪とどう関わっているのかを明らかにする。
- ③ ①②を踏まえ、医を志す自分はどう生きるのかを述べる。
- ④ 六〇〇字以内あるいは一〇〇〇字以内でまとめる。

2 論述作成へのアプローチ

設問文では、「モノ、人、カネ、情報などが国境を越え世界に広がり続けている」ことを「グローバリゼーションの進展」と言っている。まずは、そうした「グローバリゼーションの進展」を、あなた自身の暮らし（現実）に照らし合わせて具体的にチェックしてみよう。そして、そこで気になったこと（事象・現象）について、それが、どのようなプロセスを経てなぜ起こっているのか、自分及び自分以外の他者にとってどのような意味を持っているのかを丁寧に探っていくことで、「功罪」、「自分との関わり」は自ずと明らかになってくるだろう。その上で、それらを踏まえ「医を志す自分の生き方」を述べていくことになる。

① 「グローバリゼーション」とはどういうことなのだろうか？

設問文から分かるのは、有形・無形を問わずさまざまなモノ、人、カネ、情報などが国境を越え世界に広がっていく現象・事態を表す言葉（用語）ということだろう。厳密な定義付けは決まっていないが、一般的には「ヒト、モノ、カネ、技術、文化等様々な分野で国境を越える動きが活発化し、世界大での相互作用を及ぼしあっている状況を指して言われることが多い」（平成10年度通商白書）

② ①を、具体的事実（現実）に照らして確かめてみる。現在の自分との関わりを考えていくために、自分が生きている現実／毎日の生活を振り返ってみるとよい。

▽どんなモノや情報が国境を越えて動いているのか。

自分自身や家族の毎日のふるまいを振りかえることからはじめてもよい。例えば、毎日電車や車に乗り学校や勤め先に向かう、昼休みや放課後、アメリカやヨーロッパから進出してきたコーヒー店・ハンバーガー店に立ち寄り、夕方や休日、総合スーパーマーケットやコンビニで買い物をする、家の中では快適な環境のもと、テレビやパソコンに向かう……など、ごく平凡な日常生活の中から、国境を越えてやってきたモノや情報やヒトやカネの具体例を探し整理していけば、「グローバリゼーション」の実態をつかむことができる。あるいは、平凡な市民生活の影でうごめく犯罪や表にくい出来事に着目すると、問題例を見つけられよう。

・日常生活の中から

↓大型総合スーパーマーケットで売られている、他の国で作られ輸入された食料品（例えば、エビ、刺身等の海産物、プロット
コリーなどの野菜、加工食品の原料となる大豆や小麦……）、衣類・バッグ・靴（特に靴下や下着類、あるいは高級ブランド品）、家電製品など

↓外国に本社があるコーヒーショップ・ハンバーガー店、ブランドモノを扱う専門店

↓車及び交通手段の燃料（ガソリン・軽油など）となる石油

↓衛星放送やインターネットなどにより、国境を越えて行き交う情報

↓映画（映像）、音楽、スポーツ分野における作品や人の往来

↓留学あるいは職を得るために労働力として国境を越えて行き交う人たち

↓国境を越えて活発に行われる金融取引

↓国境を越える生き物たち（は虫類、両生類、昆虫、クモ、植物……）

・目に見えにくい、表に出にくい事象、あるいは闇社会に着目

↓ウイルス、細菌等の病原体（エイズ、鳥インフルエンザなど）

↓麻薬・合成麻薬・覚醒剤・マリファナなど非合法薬物

↓銃刀類（武器関連）

……など

③ ②をもとに、「グローバリゼーション」推進のメカニズムを考えてみる。

日常生活を振りかえれば、国境を越えてやってきた商品や情報の多さ・多様さに気付くだろう。ごくシンプルに考えるとその理由が見えてくる。例えばタイやベトナム産のエビがスーパーのショーケースに並ぶのは、あるいはヨーロッパの名高いブランド品やその直営店の進出が進むのは、私たちがそれらを求め購買するから、企業の側から言えば「儲けることができる」からだ。ではなぜ「私（たち）」はそれらを求めるのか？「安いから」「美味しいから」「かっこいいから」「差を付けたいから」だろうか。

企業側は、こうした「私（たち）」の欲求に応えあるいは欲求を高め、より高い「利潤」を確保していくための戦略を立てる。例えば、海外に工場を作り、安価に原料を確保し、低賃金労働によって商品を製造し、日本に運んで安く売る。あるいは、私たちのブランド志向をさらに刺激し、かつ中間マージンを抑える効果を狙って直営店を進出させる……。

こうした具体的事実から分かるのは、私たちの限らない欲求とそれを利用し利潤を増大させようと動く市場原理が、「グローバルゼーション」を進める原動力であるということだろう。

多国籍企業が有効な経営戦略を立てるには、さまざまな国の情報を収集していくこと、各国に置いた工場や支社・支店の間の素早いコミュニケーションが不可欠である。ここから「グローバルゼーション」の進展には、IT技術が不可欠であることも分かってくる。国境を越える金融取引は高度のIT技術があつてこそ成り立つのだ。

モノや情報だけでなく、ヒトも国境を越える。楽しみを求めての海外旅行だけでなく、少しでも高い賃金を求めて日本に流れ込む途上国の人々、あるいは、政治的理由により祖国から逃れてくる人々や、非合法な目的のために不法入国・不法滞在を斡旋する組織もある。また、ヒトやモノの流入の際に、検疫をすり抜けて入ってくる生物や細菌・ウイルスもある。

市場原理（資本主義システム）、ITは、国家のあり方や政治にも強い影響を及ぼす。グローバルゼーションを促す経済競争の勝者となる国や地域こそ、国際政治舞台で現実的な力を持つことができるからだ。

④ 「グローバルゼーション」進展の「功罪」を探り、それと自分との関わりを考える。

私たちがほしいモノを安く手に入れることの背景には、途上国において容易に原料確保ができたり、安い労働力を簡単に手に取られるという現実がある。

例えば、スーパーに並ぶエビの多くは、マングローブを伐採して作られた養殖池で効率的に（つまり大量のえさと消毒薬を駆使し、安い人件費のもとで）生産される。こうした供給システムは私たちの求め（需要）に応じ拡大していくが、それと共にマング

ローブの伐採は加速し、消毒薬が水や土壌を汚染し続ける。グローバルゼーションの進展により、同じような問題（環境破壊）が地球レベルに拡大していくだろう。また、加速度的な未開の地の開発は、遺伝子資源を破壊すると共に、ウイルスや細菌を刺激し、その地に閉じられていた感染症を解き放つという指摘もある。

だが、悪いことばかりではない。グローバルゼーションは、途上国の人々の暮らしを向上させていくし、民主主義の価値理念である自由を地球規模に広げていくのだ。なるほど、二十数年前と現在とを比較するとG N Pが数倍になったという国も少なくないし、自由に目覚めた人たちが主体的生き方を追求するようになった地域もある。これらは、メリットと言える側面だが、同時に、すべてを商品化し、人々の欲望を刺激し利潤獲得へと向かう市場原理の浸透は、伝統的な人と人とのつながり、古くからの風習など固有の文化を破壊し、貧富の差を拡大し、社会を混乱させるといふ面も生み出す。

競争に勝つのが困難な地域では、負の側面ばかりが広がり、人々の不満や不安が増すだろう。グローバルゼーションの勝者である側への怨念も深まっていく。こうした事態を、テロ組織が利用していくとどうなるのだろうか……。グローバルゼーションの進展に伴い、国境を越えたテロが頻発しているという現実も押さえておきたい。

グローバルゼーション進展の裏には、利潤獲得・拡大を求めての激しい競争があり、そのツケの多くは敗者側（途上国地域や貧困層）に回ってくるが、一見勝者に思える経済大国の内部でも同様な競争は止まず、それが、私たちの内面や生き方、社会のあり方にさまざまな影響を及ぼしている。

こうして、考えていくと、グローバルゼーションの進展が生み出す「功罪」及び「現在の自分」との関わりが見えてくるだろう。

⑤ 医を志す自分はどう生きるのか。

①～④に関する論の内容によって、⑤で述べるべきこともある程度定まってくるだろう。例えば、国境を越える感染症や薬物問題、あるいは環境破壊に苦しむ人たち、テロ被害の問題などを取り上げた場合は、「医」を目指す一人として、事態の改善・問題解決にどう尽くしていくのかを述べることになる。多くの人は、こうした方向での論述を書く予想されるが、「医」に直接関連する事例や問題を取り上げない場合でも、「医を志す自分」の生き方Ⅱどう生きていこうと考えているのか、を述べていくことはもちろん可能だ。以下にそのヒントを挙げておく。

▽ 「医」とは何だろうか、その特性や本質、役割などを考えてみる。

- ・少なくとも「いのち」を扱う分野である。「いのち」に尊卑の別はない。
- ・人と人との関係の中に「医」が成立する。患者と医者是对等の関係にある。
- ・患者にはさまざまな人がいる。個々の患者は固有の文化の中に生きている。
- ・「医」に従事する者は、他者（患者）の生き方をよく理解し、「いのち」を尊重することが大切。……など
- ▽ 自分はずなせ「医」を目指しているのか、その理由を明らかにしてみる。
- ▽ 「医」と「グローバリゼーション」及びそれを推し進める「市場原理」との違いを考え、そこから自分の生き方を明らかにしてみる。

「グローバリゼーション」を推進するメカニズムと「医の特性や役割」をつきあわせてみれば、「違い」が幾つか浮かび上がってくるだろう。例えば、前者は競争を加速し、格差を拡大し、対立を生むのに対し、後者は、「いのち」や「こころ」、「人間と人間のつながり」を回復していく役割を担う。

こうしたことを念頭に置き、前者の動きが進む世界の中の「勝ち」に属する国（地域）に生まれ育ってきた自分、そして後者の分野を志す自分だからこそできること、為すべきことは何なのか、じっくりと考え、まとめてみよう。

